ガッチャンコ HBC

Press Release
HBC 北海道放送株式会社

※「ガッチャンコ」とは…
「くっつける」「ひとつになる」という意味で使われる言葉。HBCが、人と人、地域と地域を「つなぐ」存在でありたいという願いがこめられています。

2021年12月24日

第76回文化庁芸術祭優秀賞受賞
HBC 制作テレビドキュメンタリー番組
「ネアンデルタール人は核の夢を見るか ～“核のごみ”と科学と民主主義～」

HBC 北海道放送が制作したテレビドキュメンタリー番組「ネアンデルタール人は核の夢をみるか～“核のごみ”と科学と民主主義～」(2021年11月21日放送)が、第76回文化庁芸術祭テレビ・ドキュメンタリー部門で優秀賞を受賞しました。HBC の受賞は2012年(H24年)ラジオ部門ドキュメンタリーの部「凍えた部屋～姉妹の孤立死が問うもの～」以来9年ぶりです。

【番組名】
ネアンデルタール人は核の夢を見るか
～“核のごみ”と科学と民主主義～
ディレクター　　澤出梨江
プロデューサー　山﨑裕侍

【放送日時】
2021年11月21日(日)
午前1時58分～午前3時28分

【内容・見どころ】
去年8月、北海道の寿都町と神恵内村で、原子力発電所から出る高レベル放射性廃棄物、いわゆる「核のごみ」の最終処分場選定の応募に向けた動きが明るみとなりました。住民説明会では反対意見が続出。賛成派の住民も少なくなく、マチは二分されていきます。寿都町長は住民投票を求める声があるにもかかわらず、「肌感覚では賛成派が多い」として2か月で応募に踏み切りました。神恵内村も、同じタイミングで応募を表明しました。核のごみは地下300メートルより深い場所に埋める地層処分です。人体に影響がない放射線量になるのは10万年後とされます。いまから10万年前はネアンデルタール人がいた時代です。

衆院選では核のごみが大きな争点とならないまま、10月には寿都町長選挙が行われ現職が勝利しました。反対派の候補が4割以上も得票するなど、マチの分断はより深まりました。

私たちは10万年後まで責任をもって核のごみを処分できるのか。処分地の決め方はどうあるべきか。先送りできない課題が突きつけられています。5月に放送した番組からさらに南鳥島をめぐる新たなインタビューや寿都町長選挙などの動きを交えて、“核のごみ”がつきつけた科学と民主主義のありようについて考えます。

【文化庁芸術祭について】（※文化庁 HP より）

文化庁芸術祭は、広く一般に優れた芸術の鑑賞の機会を提供するとともに、芸術の創造とその発展を図り、もって我が国の芸術文化の振興に資することを目的として昭和 21 年以来毎年秋に開催される芸術の祭典です。

文化庁芸術祭の形態は、芸術祭の期間中に企画委員会が企画し、芸術団体等に制作を依頼して行う主催公演、芸術祭の期間中に開催される優れた活動実績を持つ芸術家等が行う公演等のうちから、芸術祭にふさわしい内容と認めるものを執行委員会が委嘱する協賛公演、さらに、芸術祭に参加を希望する公演（演劇、音楽、舞踊、大衆芸能の 4 部門）や作品（テレビ･ドラマ、テレビ･ドキュメンタリー、ラジオ、レコードの 4 部門）のうちから執行委員会が芸術祭にふさわしいものとして参加を認めた参加公演および参加作品があります。

参加公演･参加作品については、それぞれの部門で公演･作品内容を競い合い、成果に応じて文部科学大臣賞（芸術祭大賞，芸術祭優秀賞，芸術祭放送個人賞，芸術祭新人賞）が贈られます。

【受賞理由】

原発の高レベル放射性廃棄物＝「核のゴミ」の地層処分調査に名乗り出た北海道寿都町。賛否で二分された構図の裏に、町に落ちる莫大な交付金目当ての思惑や、南鳥島を最適地とする提案があることなど知られざる事実を抉り出した。事業主体「NUMO」理事長にも取材、国の核政策が一自治体に押し付けられている歪みを浮き彫りにした構成力が光る。

◆お問い合わせ　HBC北海道放送　コンテンツ制作センター報道部

011－232－5872